

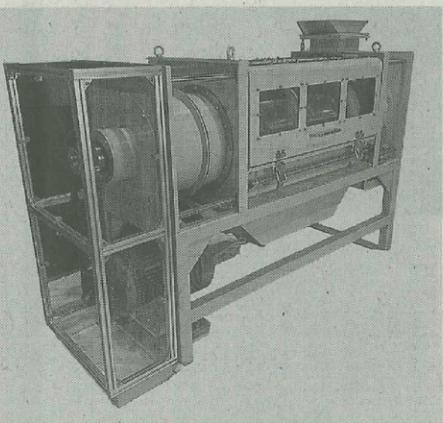
# 2023年6月20日(火) 工業技術新聞掲載

## ユーザーの更なる高度なニーズに対応する 脱墨処理装置や横型洗浄脱水機が話題！

### 日本シーム

日本シーム(埼玉県川口市安行北谷六五、〇四八―二九八―七七〇)は、五月二十四日、二十六日まで東京ビッグサイトで開催された「N E W 環境展」に、脱墨処理装置や横型洗浄脱水機を出展し、好評を博した。

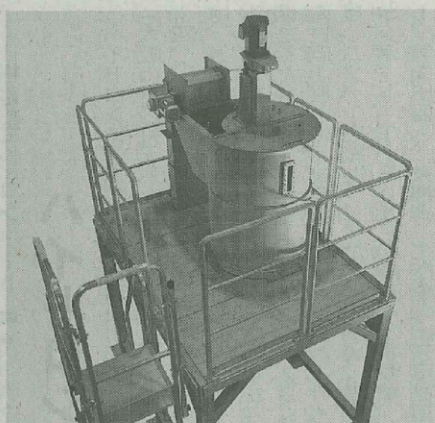
廃プラスチックリサイクル機器&プラントメーカーの日本シームは今年創業45周年を迎えた。同社は長年一貫してプラスチックの洗浄粉砕・脱水・乾燥・減容等の再生加工機器の製造・開発を幅広く行い様々なニーズに心をこめてきた。



シーガル FD-400

今回の環境展では「水平リサイクル」等のさらなる高度なニーズに対応すべく新商品2機種を展示した。

ひとつは脱墨処理装置「なるとトルネード(実験機NTA-500)を展示」。



なるとトルネード

本装置は、プラスチック表面に印刷されたインクをアルカリ温水等の薬液を利用して浸漬・剥離処理を行う装置。従来、印字またはデザインされたプラのリサイクル材料は、雑色及びインク成分含有となり再利用が限られていた。また、プラ材質・インクなどの種類、印刷手法等により剥離度合いが相違するため、カスタマイズ性の高い装置が必要であった。

そこで日本シームは、新たに実験機NTA-500を開発製造し、組み合わせた前後の装置も含め、対象プラに応じた実験ができる体制を整えた。

今秋には同社敷地内に研究開発センターが完成予定で、さらなる実証実験の対応強化を図る。もう一つの新商品は、横型洗浄脱水機「シーガルFD-400」を展示した。

従来の縦型脱水機では、レジ袋などの軟質プラスチックの脱水は装置内で目詰まり等が発生し頻りに掃除が必要であり処理後の含水率も高めになることもあった。

本新商品は、回転翼の新設計及びメッシュ部の自動洗浄機能を付け加え、目詰まりの抑制及び処理後含水率の低減化を実現した。



また、両側面が名前の由来でもあるカモメの翼のように大きく開く設計になっており、メンテナンス性も向上している。今後は他常設実験機器も含め、対象物の性質にあった実験を実施し、ユーザーニーズに沿って、適正機種及びライン構成の提案なども積極的に行っていく体制としている。

<https://www.nishimura.co.jp/>